

講座名（専門科目名）	生体統御医学（救急医学）	教授氏名	嶋津 岳士
学生への指導方針	急性病態についての研究は、広い基礎医学の裾野を必要とします。活性酸素・NO・サイトカイン・接着因子・遺伝学など、特に最近発展が著しい分野の成果を積極的に取り入れ、臨床に応用することを常に目指しています。侵襲下における臓器傷害に対し、細胞死の抑制、細胞の新生、過剰な炎症を制御することが治療につながります。そのためには、発生や腫瘍領域で活発に研究されている細胞内シグナル伝達、細胞間の応答メカニズムを理解し、救急医学分野で応用することが必要となります。修士課程学生に対しては、主に動物侵襲モデルを用い、分子生物学的、形態学的、生理学的な評価を行い、 <i>in vitro</i> 系にフィードバックしながら、ミクロからマクロまで包括的な基礎的研究を担当して頂きます。また、多臓器障害モデルなどにおいて間葉系幹細胞移植などの再生治療も試みています。さらにクラッシュ症候群や熱中症モデルなどを使用して、DAMPs（ダメージ関連分子パターン）標的治療の開発も進めています。		
学生に対する要望	新たな治療の開発は、一つ一つの基礎研究の積み重ねの上に成り立っています。最終的に、基礎研究の成果を実際の臨床へ応用することを目指しています。このため、高度救命救急センターで経験する症例を共に検討しながら研究を進めていくことが可能です。我々は、医学系出身者のみならず、独特の発想や技術と様々なバックグラウンドを持ち、トランスレーショナル・リサーチを極めようという意欲のある学生を求めています。さらに、救命救急、重症患者の集中治療に関して熱意を持った“救命救急”の次世代を担う学生も求めています。		
問合せ先	ホームページ <a href="http://www.osaka-u-tacc.com/">http://www.osaka-u-tacc.com/</a>	担当者	
その他出願にあたっての注意事項等			
研 究 内 容			
侵襲時再生応答に関する研究 侵襲時免疫応答に関する研究 SIRS、sepsis、DIC、ARDSの病態解明と治療法の開発 敗血症時のストレス応答に関する研究 感染侵襲時の酸素代謝異常・臓器不全発症機転解明とその治療に関する研究 蘇生後低酸素脳症患者の急性期病態の解明 外傷性中枢神経障害の治療法の確立に関する研究 重症頭部外傷に対する低体温療法、減圧術の確立 救急医の養成と確保法についての研究 クラッシュ症候群に対する治療法の開発 熱中症に対する治療法の開発	敗血症に対する幹細胞移植療法の開発 敗血症時の脳内物質の発現と生体反応（敗血症性脳症の研究） 生体侵襲時における腸管免疫の研究 生体侵襲時における血管内皮細胞障害の研究 救急搬送患者の疫学研究 sepsis患者の疫学研究 心停止患者に関する地域網羅的研究 集中治療患者に対する感染制御策の確立 院内救急システムの確立 画像伝送遠隔支援システムの確立 侵襲時ミトコンドリア機能に関する研究		
著 者	研 究 業 績	掲載雑誌・巻・号・頁等	
Tomoya Hirose, Taku Iwami, Hiroshi Ogura, Hisatake Matsumoto, Tomohiko Sakai, Kouji Yamamoto, Toshiaki Mano, Yuji Fujino and Takeshi Shimazu	Effectiveness of a simplified cardiopulmonary resuscitation training program for the non-medical staff of a university hospital	Sacndinavian Journal of Trauma Resuscitation and Emergency Medicine Vol.22 2014	
Tomoki Yamada, MD, Kentaro Shimizu, MD, Hiroshi Ogura, MD, Takashi Asahara, PhD, Koji Nomoto, PhD, Kazuma Yamakawa, MD, Toshimitsu Hamasaki, PhD, Yasutaka Nakahori, MD, Mitsuo Ohnishi, MD, Yasuyuki Kuwagata, MD, and Takeshi Shimazu, MD	Rapid and sustained Long-Term Decrease of Fecal Short-Chain Fatty Acids in Critically Ill Patients With Systemic Inflammatory Response Syndrome	aspEN(JPEN) 2014	
Tomoya Hirose, Kentaro Shimizu, Hiroshi Ogura, Osamu Tasaki, Toshimitsu Hamasaki, Shuhei Yamano, Mitsuo Ohnishi, Yasuyuki Kuwagata, Takeshi Shimazu	Altered balance of the aminogram in patients with sepsis - The relation to mortality	Clinical Nutrition Vol.33 p179~182 2014	
Takashi Muroya, MD, Hiroshi Ogura, MD, PhD, Kentaro Shimizu, MD, PhD, Osamu Tasaki, MD, PhD, Yasuyuki Kuwagata, MD, PhD, Takashi Fuse, MD, Yasushi Nakamori, MD, PhD, Yusuke Ito, MD, Hiroshi Hino, MD, and Takeshi Shimazu, MD, PhD, <i>suita, Osaka, Japan</i>	Delayed formation of splenic pseudoaneurysm following nonoperative management in blunt splenic injury: Multi-institutional study in Osaka, Japan	Journal of Trauma and Acute Care Surgery Vol.75 No.3 p417~420 2013	
Kazuma Yamakawa, Hiroshi Ogura, Satoshi Fujimi, Miki Morikawa, Yoshihito Ogawa, Tomoyoshi Mohri, Yasushi Nakamori, Yoshiaki Inoue, Yasuyuki Kuwagata, Hiroshi Tanaka, Toshimitsu Hamasaki, Takeshi Shimazu	Recombinant human soluble thrombomodulin in sepsis-induced disseminated intravascular coagulation: a multicenter propensity score analysis	Intensive Care Med Vol.39 p644~652 2013	

